

令和5年度前橋・高崎連携事業文化財展

東国千年の都

文字だらけ

出土文字資料からみた古代の前橋・高崎



開催にあたって

平成19年度から開催している前橋・高崎連携事業文化財展も、今回で17回目を迎えます。前橋市と高崎市が協力し、毎年テーマを変えて、それぞれが所有する歴史的資産の一端を紹介しております。

今回は「古代、出土文字の世界」をテーマとしました。これまで両市内でおこなわれた発掘調査では、7世紀以降の出土文字資料がたくさん発見されています。これらの資料が出土した、古代の役所、集落や寺院など、当時の人々が活動した「空間」を掘り下げてみたいと思います。現在、私たちが日常的に使用している文字は、紙からデジタルデータに移行した場面が増えてきています。この展示会が、これからの時代、文字とのつき合い方について考えるきっかけになると幸いです。

主催：前橋市・前橋市教育委員会、高崎市・高崎市教育委員会

後援：朝日新聞社前橋総局、NHK前橋放送局、㈱エフエム群馬、共同通信社前橋支局、群馬テレビ㈱、㈱群馬よみうり、産経新聞前橋支局、㈱J:COM埼玉・東日本群馬局、時事通信社前橋支局、上毛新聞社、(一社)高崎観光協会、東京新聞前橋支局、毎日新聞前橋支局、(公財)前橋観光コンベンション協会、㈱まえばしCITYエフエム、読売新聞前橋支局、㈱ラジオ高崎

50音順・敬称略



前橋市長 山本 龍



高崎市長 富岡 賢治

第1章 出土文字資料とは

出土文字資料とは、発掘調査などで土中から出土する墨^{すみ}で書く、ヘラや釘^{くぎ}で刻まれる土器や瓦^{かわら}、木簡^{もっかん}等、文字の記された資料をいい、発掘調査の増加で爆発的に増えている。紙に書かれ伝世する文献史料^{ぶんけん しりょう}は、1点で多大な情報を伝えるが、今日に残る古代以前の文献史料は非常に少なく、加えて地方の情報は極めて乏しい。

これに対し、出土文字資料は地域格差が少なく、とりわけ東国において墨書土器や線刻紡錘車^{せんこくぼうすいしゃ}の出土は恵まれた状況にある。記された文字は、1文字のものが圧倒的に多く、1点1点は断片的ではあるものの、出土した遺跡の性格、記された素材の使用用途、使用された時代の情報と合わせて享受することが可能である。写本^{しゃほん}が多い文献史料と異なり、記された当時の姿で出土する。地名^{ちめい}、人名^{じんめい}、施設名^{しせつめい}を記したものも多く、饗宴^{きょうえん}や祈りの様子など文字が記載された目的、状況を探求していくことで古代社会像を解明していく可能性を秘めているのである。



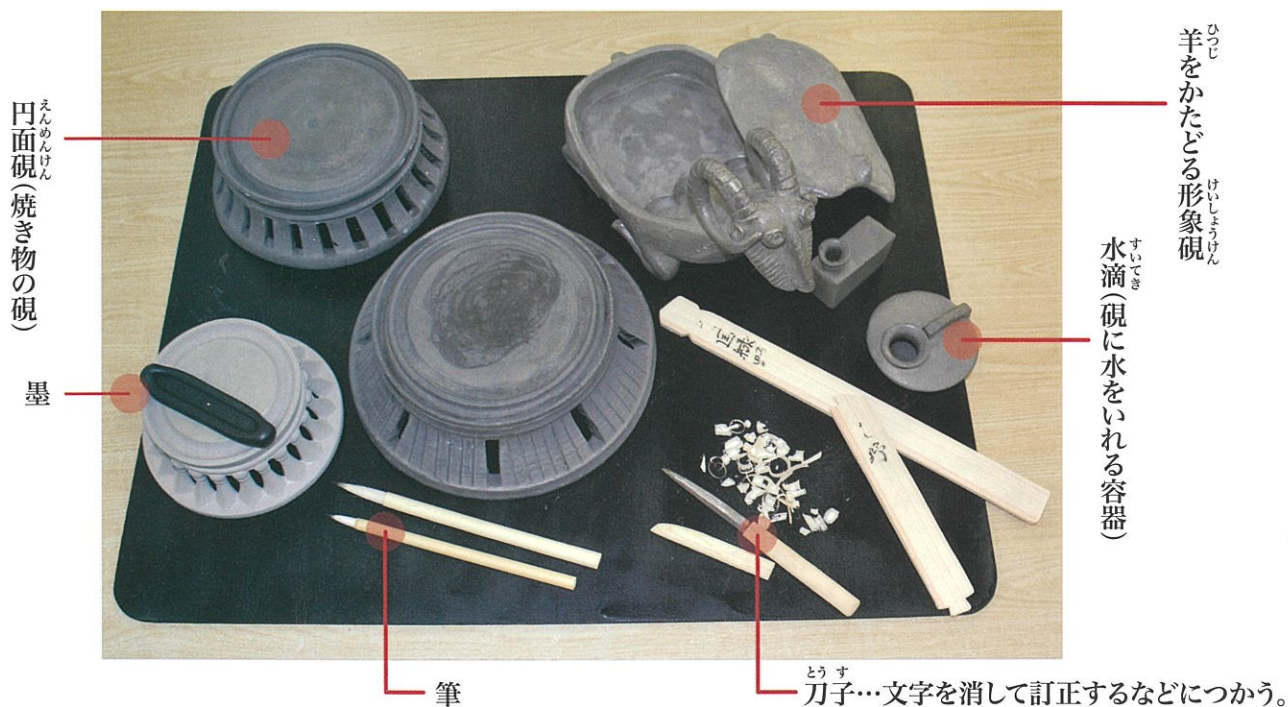
「△に上」の墨書 五代木福II遺跡(前橋市)



「明」の墨書 五代深掘III遺跡(前橋市)

古代の文房具【文房四宝】

- 中国では古くから文人の書斎を「文房」と呼んでいた。
- そこで使う道具を「文房」と呼ぶようになった。
- 文房四宝は、その中心である「紙・筆・硯・墨」を指す。



第2章 集落出土の文字

【集落出土の文字の種類】

○土器や糸をつむぐ道具(紡錘車)などに、墨書・刻書による文字が残る。

- ・墨書：土器が焼かれた後に、墨で文字を書く。
- ・刻書：多くは土器を焼く前に、ヘラなどで文字を刻む。

○その多くは1～2字の文字が書かれている。

○文字の意味：人の名前・氏族名・職掌・地名や、まじない・神仏に関する文字・縁起の良い文字と多岐に渡る。

【集落出土の文字の特徴】

○ひとつの集落遺跡から同じ文字が書かれた資料が複数出土することがある。

⇒集落内で共有されている文字がある。

〔前橋市〕

- ・芳賀北部団地I遺跡 「千」「千万」「千万/寿」
- ・堀越中道遺跡 墨書土器「立」と焼印「立」
- ・荒砥洗橋遺跡 「大上」
- ・南橋東原遺跡 「生」

〔高崎市〕

- ・長根遺跡群で多胡郡の「多」が書かれた紡錘車が多く出土
- ・中村遺跡 「十」「生」
- ・道場遺跡 「主」
- ・豊岡後原I・II遺跡 「東」

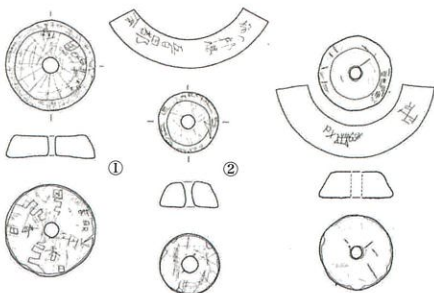
前橋市五代町

芳賀東部団地遺跡・五代遺跡

- *前橋市街地北東部の五代町を中心として芳賀地区に位置し、古墳時代前期から平安時代に至る集落遺跡である。赤城山南麓の緩傾斜地で、東西を谷にはさまれた地形の台地上にある。
- *勢多郡の藤沢郷の一部であるとみられ、竪穴住居300軒、掘立柱建物140棟などを検出し、多くの墨書土器が発見された。
- *「千万」「酒」や則天文字が書かれた墨書土器、多くの文字を刻んだ石製の線刻紡錘車などが出土する。
- *その地域の中核的集落とみられ、中には官衙(役所)的要素をもつものも含まれる。

【文字が刻まれた紡錘車】

- ① 磨春日部国磨
・「春日部国磨」は人名と考えられる。
・春日部姓：県内資料には仁治4年(1243)の板碑に春日守直、春日為延が認められる。
- ② 勢多郡(楊?)五百口都(厭?)
・郡名+姓名と推察される。勢多郡の楊氏の存在が窺える。



高崎市菅谷町

奈良～平安時代

菅谷遺跡群

- *上野国府^{※1}の近郊にある、有力な集落。
- *南に東山道^{※2}が通過。その中継的な拠点か?
- *物部氏を彷彿させる、「物」刻書土器が出土。
- *高級官人が着用した、金メッキされたベルト飾りも見つかる。

※1 古代の上野国(群馬県)の政治の中心。前橋市元総社町一帯に位置。
※2 東日本の内陸地域をつなぐ大きな路。



「路」墨書土器
東山道の主路を意味する可能性がある。



金銅製ベルト飾り(蛇尾)
金銅製は高級官人が着用。



富寿神寶
皇朝十二銭の第5。



「物」刻書土器
古代の氏族、物部氏がこの地に住んでいたのか?



西浦南遺跡の道路遺構
菅谷遺跡群の西方で発見された、東山道と推定される遺構。
両側に溝がある。

東山道 概略図



第3章 古代の役所出土の文字

古代日本の政治システムが確立する飛鳥時代以降、中央と地方の役所には漢字の読み書き能力を身につけた多くの下級役人が産みだされることとなり、文書主義に基づく中央集権的な国家体制が確立された。

前橋市には上野国(現在の群馬県)を管理した上野国府があり、元総社小学校校庭遺跡や元総社蒼海遺跡群の調査により中心施設の位置や規模等の解明が期待されている。

高崎市では、八幡六枚遺跡などの調査により、片岡郡(現在の若田町から山名町にかけての地域)を統括した片岡郡衙の存在が注目されている。

【古代の役所から出土する文字】

文字を使用する官人がいた役所では、「大館」や「厨」などの施設名、職名や人名などが記された墨書土器が多く、土器の保管や管理に伴って記されたものと考えられる。

前橋市元総社町

元総社蒼海遺跡群

- *前橋市西部の元総社町に位置し、利根川右岸の榛名山東南麓の扇状地にある。
- *牛池川と築谷川に挟まれた推定上野国府域を含む約74haの地域を対象とした土地区画整理事業に伴い平成11年から継続して調査を行っており、調査区も広い範囲にまたがることから、縄文時代から近代まで、遺跡の種類も集落、官衙、城館等多岐に亘る複合遺跡である。
- *墨書土器、文字瓦、線刻紡錘車、また円面硯や転用硯も多く出土しているが、上野国分尼寺付近となる北西部では、「大館」「少」の墨書土器や「波郡朝倉」の文字瓦、国分尼寺のすぐ南の瓦敷遺構や土坑から多くの文字瓦がみついている。「大館」は国司の館を意味し、「少」は国府の役人の官職名である少掾、少目の略と考えられる。「(那)波郡朝倉」は地名である。



南東から元総社蒼海遺跡群及び国分尼寺方向を見る



元総社蒼海遺跡群(116)出土文字瓦

前橋市元総社町

推定上野国府

- *前橋市西部、利根川右岸の榛名山東南麓の扇状地にある。
- *古くから上野国府の存在が伝えられる元総社町近辺において、平成23年から範囲内容確認調査を続けている。国府とは、律令国家において各国に設置された役所のことであり、古代の群馬は「上野国」とよばれ、最上位の「大館」であり、後に「親王任国」の扱いを受けた。
- *墨書土器、文字瓦のほか転用硯など官衙に関連する遺物も多く出土しているが、中世蒼海城本丸に近い調査区においては、平安時代の竪穴住居跡から、「阿部私印」と印された銅印が出土した。当時の役人に係わる印である可能性がある。



私印出土写真



「阿部私印」印影

高崎市八幡町・下豊岡町

奈良～平安時代

片岡郡衙 関連遺跡

- *片岡郡衙は、片岡郡^{※1}の政治の中心地的な施設。
- *八幡観音塚古墳の周辺では、礎石建物^{※2}のような特殊な建物
- *「片置(岡)郡」のような、政治センターを彷彿させる文字が出土。
- *東に離れた豊岡後原I・II遺跡からも、「貴」などの文字資料。

※1 若田町から山名町にかけて、烏川沿いの地域。

※2 大きな建物の柱が地面に沈下しないように、巨石を基礎とした建物。



豊岡後原I・II遺跡の「貴」墨書土器
「貴人」のような有力官人に関わるのだろうか？



八幡六枚遺跡の
「片置郡」刻書土器
このあたりに片岡郡衙が...？



八幡中原遺跡(第5次調査)礎石
原位置にはないが、約1mある巨石。
近くに礎石建物があったと推定される。



豊岡後原I・II遺跡の「東」墨書土器
片岡郡衙の「東」における拠点の意味？



八幡観音塚古墳と周辺の遺跡
(西から高崎市街地をのぞむ)

第4章 寺院出土の文字 -前橋市・高崎市における古代の寺院-

飛鳥時代(6世紀末)に畿内の豪族が始めた氏寺(※1)建立は地方の豪族に広がり、上野国の山王廃寺(7世紀後半)(前橋市)は、山上碑(高崎市)や古文書にある「放光寺」とされる。

奈良時代(8世紀)、鎮護国家(※2)の思想から天皇は各国に国分寺(金光明四天王護国之寺)・国分尼寺(法華滅罪之寺)の創建を命じ、上野国では現在の前橋・高崎両市の境付近一帯に壮大な伽藍が建立された。

やがて仏教が広まるにつれ、村落内寺院や僧尼の修行の場として山林寺院が建てられた。

古代の寺院から出土する文字

寺院を特徴づける多量の瓦には、一部にヘラ書きや押印で地名や人名などが記される。これらは生産地を示すものや知識(※3)として瓦を寄進した人の名などと考えられ、当時の地域社会と寺院のかかわりを知る上で重要である。

また、瓦や土器に寺院や施設の名称が記されることがあり、山王廃寺跡出土の「放光寺」文字瓦や、上野国分寺跡周辺で出土した「東院」や、「法花寺」(国分尼寺)墨書土器などは、史料に乏しい古代寺院の姿を解明するうえで貴重なものとなっている。

※1氏寺：有力者が一族の冥福と現世利益を祈るため建てた寺院。

※2鎮護国家：仏教には国家を守護・安定させる力があるとする思想。

※3知識：仏教の信者が善業を積むために寺院の建立などに際し金品などを寄進すること。

前橋市下大塚町

上西原遺跡

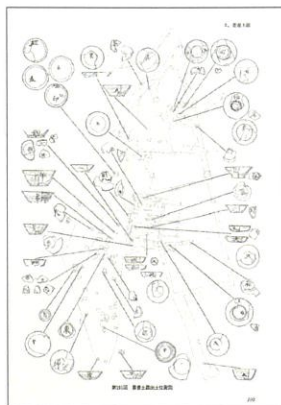
*前橋市東部の荒砥地区に位置し、赤城山南麓の緩傾斜地にある官衙・寺院等の遺跡である。

*2つの方形に溝を巡らせた区画の中に、基壇建物や大型の掘立柱建物群が見つかるとともに、小壺、硯、金銅製飾金具、瓦塔、塑像が出土しており、勢多郡衙とそれに伴う寺院跡との見方がなされている。

*「勢」の文字瓦は勢多郡を意味しており、ほかにも「寺」「上寺」「経」「福聖」など寺院に関わる文字を含め、100点以上の墨書土器が出土している。



瓦塔 方形区画で広範囲に出土した



上西原遺跡周辺の遺跡出土墨書土器

高崎市東国分町

奈良～平安時代

上野国分尼寺跡

*天平13年(743)、聖武天皇の発願により建立された大寺院。

*尼(女性僧侶)の寺であり、僧(男性僧侶)の国分僧寺とセット関係にある。

*文字が刻まれた瓦が出土。製作地の郡名や、発注した人名を意味?



「子友」文字瓦
多胡郡(吉井町から山名町にかけての地域)の「子(氏族名)友(名前)」の「子」が尼寺の修復のために発注した瓦といわれる。



「山田天」文字瓦
山田郡(みどり市から太田市にかけての地域)で製作された瓦。「天」の意味とは…?



不明 文字瓦
右側は文字部分の合成。どのように読むのだろうか?

上野国分尼寺跡 尼坊
尼たちが住んでいた建物。



上野国分尼寺 想像画
塚越潤氏製作。



第5章 石碑に刻んだ文字

上野三碑とは

群馬県(古代上野国)に所在する、飛鳥・奈良時代に造立された3つの石碑の総称である。

国内に現存する平安時代以前の古碑はわずかに18例に過ぎず、高崎市南部地域に集中することは、歴史的に見て極めて特筆される。石碑を建てる文化は中国から朝鮮半島を経由し、飛鳥時代にもたらされたものである。このため、当地域の豪族の地域経営には、渡来人が参画し、三碑の造立にも大きな影響を与えたと考えられている。

佐野屯倉を賜わった建守命の子孫の黒壳刀自。これが、新川臣の子の斯多々弥足尼の子孫である大児臣に嫁いで生まれた子である(わたくし)長利僧が母(黒壳刀自)の為に記し定めた文である。放光寺僧

■碑文の現代語訳

辛巳年(天武天皇十年)西暦六八一年)十月三日に記す。

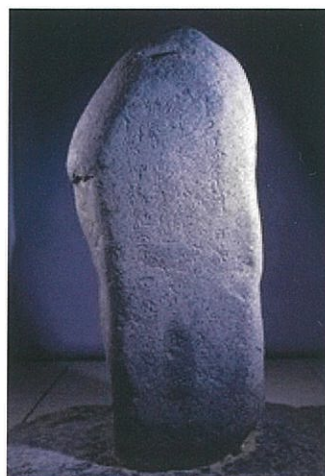
■碑文

辛巳歳集月三日記

佐野三家定賜健守命孫黒壳刀自此

新川臣児斯多々弥足尼孫大児臣娶生児

長利僧母為記定文也 放光寺僧



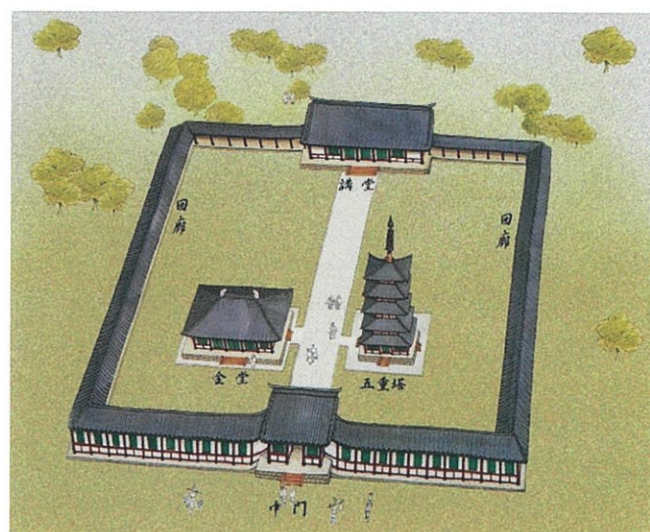
■碑の大きさ
高さ二二cm

やまのうえひ
山上碑

— 古代豪族の婚姻や氏族のつながり



「方光」文字瓦



山王廃寺の復元イラスト

【解説】

山王廃寺が「放光寺」

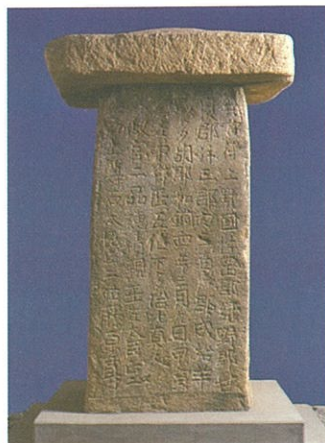
- 伽藍配置は北に講堂、金堂と塔を東西にならべ、周囲に回廊が取り囲む。
「法起寺式伽藍配置」で約100m四方の規模をもつ。
- 塔の心礎は日枝神社境内に残されている。
- 寺院の創建年代は、7世紀後半の670年前後と考えられている。
- 瓦片が大量に出土し、そのなかに「放光寺」や「方光(「方」は「放」の略字)」と書かれたものがあり、碑文の最後に見える「放光寺」であることがわかった。

たごひ 多胡碑

—1300年前の地方行政制度
のありかた

■碑の大きさ

高さ二二九cm



■碑文

弁官符上野国片罡郡緑野郡甘
良郡并三郡内三百戸郡成給羊
成多胡郡和銅四年三月九日甲寅
宣左中弁正五位下多治比真人
太政官二品穂積親王左大臣正二
位石上尊右大臣正二位藤原尊

■碑文の現代語訳

朝廷の弁官局から命令があった。上野国
片岡郡・緑野郡・甘良郡の三郡のなか
から三百戸を分けて新たに郡をつくり、羊
に支配を任せる。郡の名前は多胡郡とし
なさい。和銅四(七二)年三月九日甲寅。
左中弁正五位下多治比真人による宣旨で
ある。太政官の二品穂積親王、左大臣正
二位石上(麻呂)尊、右大臣正二位藤原
(不比等)尊。

【解説】

「片罡郡」の文字が刻まれた土器

- 「罡」の字は、多胡碑に刻まれた「片罡郡」と同じ字体を使用している。
- 八幡六枚遺跡(高崎市八幡町)でみつかった竪穴建物から出土した。
建物がつくられた年代は9世紀後半と考えられる。
- 「片罡郡」の文字から、地域の政治のセンター的機能をもつ片岡郡衙が近隣地にあると
想定され、礎石建ちの倉庫群も確認されている。



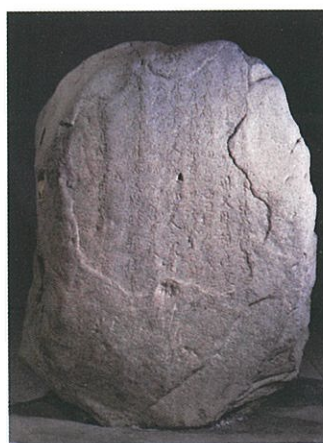
八幡六枚遺跡 刻書土器 銘文

かないざわひ 金井沢碑

—仏教思想のひろがり

■碑の大きさ

高さ一一〇cm



■碑文

上野国羣馬郡下賛郷高田里
三家子□為七世父母現在父母
現在侍家刀自他田君目頼刀自又児加
那刀自孫物部君午足次駙刀自次若駙
刀自合六口又知識所結人三家毛人
次知万呂鍛師磯マ君身麻呂合三口
如是知識結而天地請願仕奉
石文

神龜三年丙寅二月廿九日

■碑文の現代語訳

上野国群馬郡下賛郷高田里に住む三家子
□が(発願して)先祖及び父母の為に、ただ
いま家刀自(主婦)の立場にある他田君目
頼刀自、その子加那刀自、孫の物部君午
足、次の駙刀自、次の若駙刀自のあわせて
六人、また既に仏の教えで結ばれた人たち
である三家毛人、次の知万呂、鍛師の磯
部君身麻呂の合わせて三人がこのように仏
の教えによって(我が家と一族の繁栄を願っ
て)お祈り申し上げる石文である。

神龜三年(七二六)丙寅二月二十九日

【解説】

「物部私印」

- 矢中中学校建設に伴う発掘調査(矢中村東遺跡：高崎市矢中町)で見つかった。
- 平安時代の水田に伴う水路から出土し、3.7cm四方の印面をもつ鑄造製の印である。
- 「物部」は碑文のなかに、「物部君午足」が見られるが、『続日本紀』巻第26
天平神護元(765)年11月戊午朔(1日)条に「上野国甘楽郡の人中衛物部蜷淵ら
5人に、姓を物部公と賜う」とある。群馬県西部を中心に物部の分布が見られる。



物部私印(側面)



物部私印(印面)

第6章 出土文字が語るもの

■歴史を語る「宝」

古代国家が編さんした『日本書紀』などの歴史書には、東日本のことはほとんど記されていない。
だからこそ、遺跡の調査などで土の中から見つかった文字資料は、前橋・高崎地域の古代社会を探るカギとなる。

■1000年以上受け継がれた「情報」

出土文字資料は、現代の私たちが読め、その意味を大まかに考えられるものが少なくない。
だからこそ、1000年以上前の古代社会を解明することができる第一級の資料なのである。

■古代からの「メッセージ」

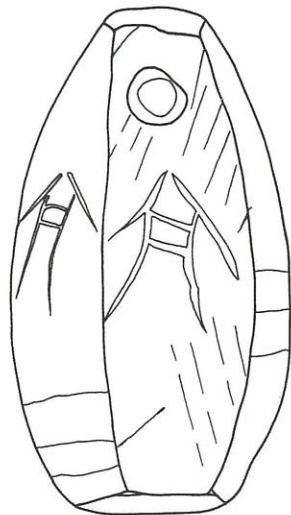
出土文字には、一文字のみで理解しにくいものがある。また、記号のような意味が不明なものも多い。
しかし、出土文字は古代の人々が何らかの意味を込めて記したのである。
自由に想像することによって、そのメッセージが明らかとなっていく。

—古代の真実を解き明かすのは、「あなた」かもしれない—

これは石に刻まれた文字です。

何と読みますか。レッツチャレンジ！

答えは右側にありますが、
まずは自分で調べてみてください。
実物は会場内に展示しています。
じっくり観察してみてください。



【出土した場所】

- 剣崎稲荷塚遺跡(高崎市剣崎町)
- ・ 竪穴建物跡(12号住居跡)から出土した。
 - ・ 出土土器から9世紀後半と考えられる。

【資料を観察する】

- ・ 石でつくられた「はかりの錘」と考えられる。
- ・ 側面を縦方向に削り、6面をつくりだす。
- ・ 石材は滑石質蛇紋岩。
- ・ 長さ5.8cm(重さ75.6g÷20.16匁[尺貫法])。

【その意味は？】

- ①かえる とりかえる。
- ②易の八卦のひとつ「沢」「秋」「西」をあらわす。

答えは「見」です。